

2016年 第77回応用物理学会秋季学術講演会

講演会企画運営委員長 宮本 恭幸

秋季学術講演会が、2016年9月13日(火)から16日(金)までの4日間、朱鷺メッセ(新潟県)で開催されました。展示面積7800m²という広大な展示ホールを備えた大変美しい会場での開催となりました。

今回の総参加者数は5603名で、昨年秋と比べ、613名の減少となりました。参加費の値上げの影響などもあるかと思えます。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

今回の講演会では14の大分類と、1つの合同セッションに、合計3692件の講演がプログラムされ、口頭発表：2607件、ポスター発表：1085件が行われました。大分類別に投稿件数を図1にまとめました。

登壇者の所属を基に投稿機関数を分類すると、大学など83%、企業7%、国・研究機関9%で、前回秋と同程度でした。通常講演の口頭発表で聴講者数の最多は「合同セッションKワイドギャップ酸化半導体材料・デバイス」で、200名の聴衆を集めました。

講演会初日は口頭講演、ポスター講演のほか、チュートリアルから始まります。チュートリアルは、当該分野を学び直してみようという方のほか、新たにその分野を学ぼうという方にも理解できるように、基礎から応用までを、講師に3時間お話しただいています。今回は初日に4件、2日めに1件実施しました。チュートリアルは参加者に浸透しており、安定した人気があります。

さらに、特別シンポジウムと26のシンポジウムが開催されました。いずれも現在ホットな話題や重要になりつつある話題を取り上げており、最新の話題が短時間に理解できることから、応用物

理学学会講演会の顔となっています。初日に開催された特別シンポジウム『『超スマート社会へ向けた応用物理』～第5期科学技術基本計画への期待と課題～』では、260名以上を集め、立ち見が出る大盛況でした。また、「窒化物半導体の最前線－欠陥のない結晶・デバイスを目指して－」は、350名もの聴衆を集めました。

2013年春から始まった“Poster Award”では、午前1回、午後2回実施されたポスターセッションにおいて、セッションごとに、優れたポスター講演を選出し、選出されたポスターを講演終了後も別の場所で閲覧できるようにしました。そこには、最終的に17件のポスターが並び、多くの方が足を止めていました。Poster Awardの選出過程は以下のとおりです。①プログラム編集委員会で大分類ごとのプログラム編集委員による予稿審査・候補対象の絞り込み、②ポスターセッション開始直後の評価者による最終候補選考の後、③本会理事、フェローおよび代議員による投票、その投票結果を基に、④ポスターセッション終了直前に開催される最終選考会議で決定されます。多くの方々の協力により質の高いポスター発表を選出できています。Poster Awardの設定を機に、ポスターセッションがより充実した情報交換の場となっています。

理事、フェロー、代議員の皆様には、事前に投票者として割り当てております(飛び入り投票も可)。ご協力いただきました方々には大変感謝するとともに、次回も是非投票にご協力くださいますようお願いいたします。

Poster Awardと同じく2013年春から始まった、“JSAP フォト & イラスト コ

ンテスト (Science as Art)”を展示会場にて実施しました。いずれも、芸術性を踏まえて、意外性、偶然性ありのすばらしいワンカットで、多くの参加者の注目を集めていました。この企画では、参加者の投票により、最優秀賞1作品、優秀賞2作品が選ばれました。

講演会の企画運営では、参加者の皆様へのサービス向上を意図して、ITの積極的な活用にも注力しています。例えば、プログラムや予稿PDFをスマートフォンやタブレットでも閲覧できるアプリを提供しています。TwitterやFacebookによる情報発信も2013年より行っています。

最後になりましたが、今回の講演会は、会場近隣の新潟大学の教員で構成された現地実行委員会による1年間にわたる準備とアルバイトの学生たちを含めての4日間と前日の現場での活躍のおかげで、全ての行事を滞りなく進めることができました。現地実行委員長の加藤景三先生をはじめ、現地実行委員会の諸先生には深く感謝申し上げます。また、今回ご協力いただいた関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。

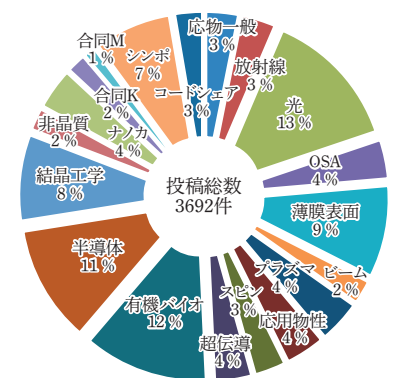


図1 第77回応用物理学会秋季学術講演会投稿論文分類。各大分類の値には若干の誤差があります。